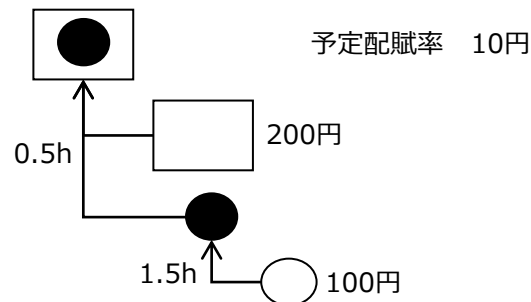


標準原価計算



計算の概要

①標準原価を決める

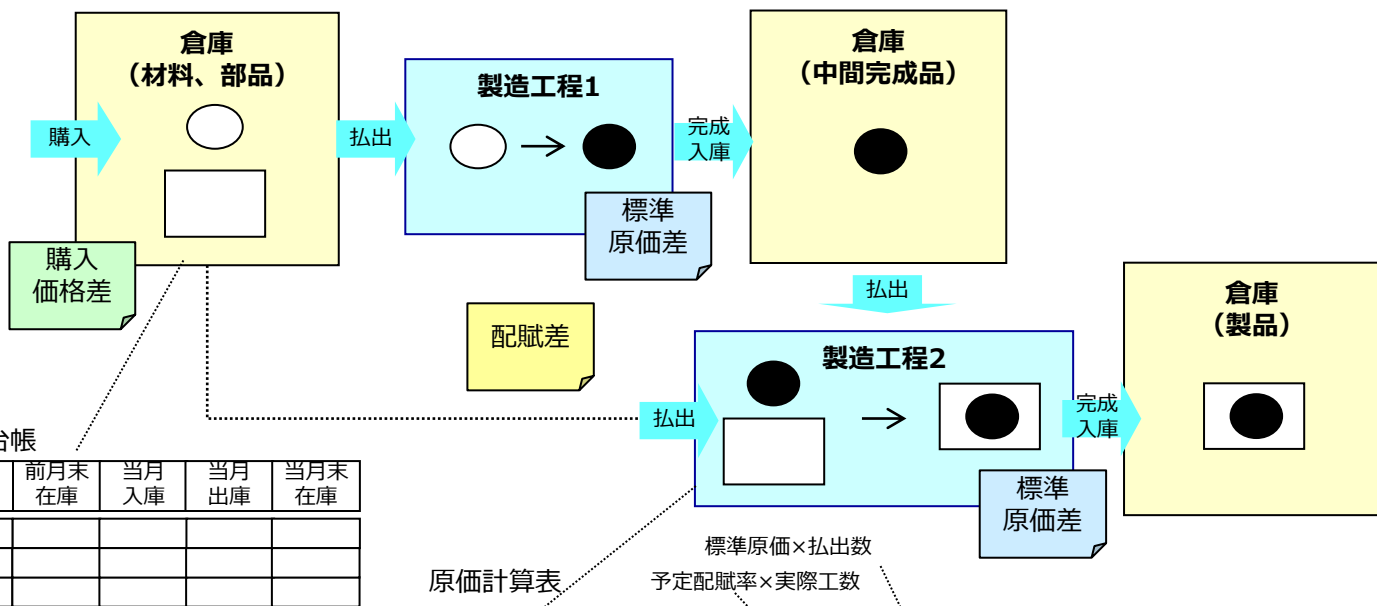


<標準原価>

	前工程	材料費	加工費	合計
●	115	200	5	320
●		100	15	115
合計		300	20	

②実績原価を計算する

- 在庫評価は、標準原価で行います。
 - 直接材料費は、標準原価×実際払出数で計算します。
 - 加工費は、予定配賦率×実際工数で計算します。
- ↓
- 原価差額
購入価格差額
標準原価差額
部門費差額（配賦差異）
が発生します。



在庫品台帳

	前月末 在庫	当月 入庫	当月 出庫	当月末 在庫
合計				

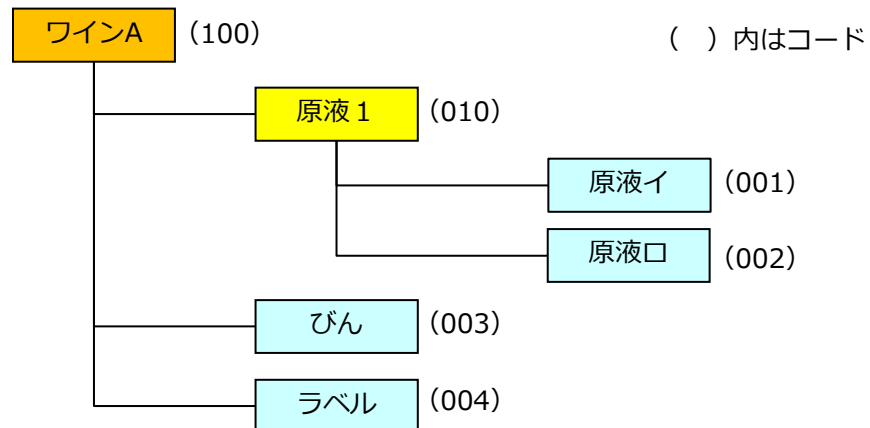
標準値で計算

原価計算表

	月初 仕掛品	月末 仕掛品	当月 投入高	当月 出来高	当月 標準出来高	当月 差額
直接材料費					200	
自製材料費					115	
加工費					5	
合計						

計算の手順 (1/3)

1)ワインAの標準原価を算出します。



年期：XXXX年上期

品目 コード	品名	前工程	材料費	労務費	設備費	その他経費	合計
100	ワインA	180	400	80	40		700
004	びん		200				200
003	ラベル		200				200
010	原液1		100	50	30		180
001	原液イ		50				50
002	原液ロ		50				50

原液1の材料費は、原液イ+原液ロ です。
ワインAの前工程は、原液1 です。
ワインAの材料費は、びん+ラベル です。

標準原価の算出は、

- ・製品毎に材料構成（原単位表、部品表、BOMと呼ばれています）を作成します。
- ・各材料の当該年期の標準単価を決めます。（例 前期の最終仕入単価を今期の標準単価とするなど）
- ・各製造工程の予定賃率（時間単価）を決めます。（予算の発生費用÷予算の操業度など）
- ・各製造工程の当該年期の標準工数を決めます。（生産技術的な検討からなど）
- ・上記の情報を各製品の材料構成に従って積上計算

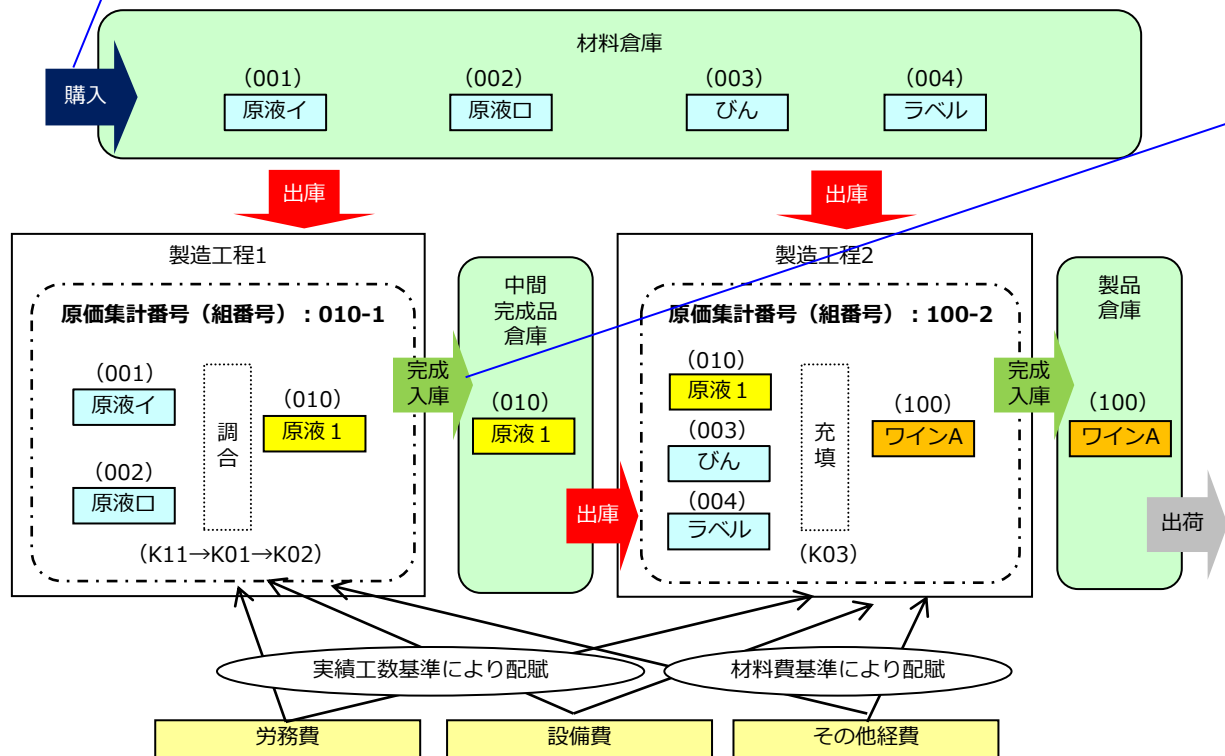
によって行います。

計算の手順 (2/3)

2)次に、上記の標準原価（標準単価）を実績原価計算の各計算段階に組み込みます。

(イ) 購入価格差額の計上

購入の段階で、実際購入価格と標準単価の差額を「購入価格差額」として計上します。
在庫品台帳は、標準単価×入庫数、標準単価×出庫数、標準単価×在庫数で作成します。
組番号への出庫（材料費の投入計算）も出庫数×標準単価で計算します。



(ロ) 標準原価差異の計上

完成入庫（出来高計上）の段階で、当月出来高（製造原価）と標準原価の差額を「標準原価差異」として計上します。

中間完成品010の在庫品台帳は、

- ・標準原価×入庫数
- ・標準原価×出庫数
- ・標準原価×在庫数

で算出します。

組番号100-2への出庫（自制材料費の投入計算）も

- ・出庫数×標準原価

で計算します。

原価計算表の書式は下記ようになります。

締年月：XXXX年XX月 組番号：010-1 名称：原液1製造 製造数：100

	月初 仕掛品	月末 仕掛品	当月 投入高	当月 出来高	標準 出来高	標準 原価差額
直接材料費			10,000	10,000	10,000	0
自製材料費						
労務費			5,000	5,000	5,000	0
設備費			3,000	3,000	3,000	0
その他経費						
合計			18,000	18,000	18,000	0
	①	②	③	④	⑤	⑥
				①+②-③		⑤-④

⑤は、原液1の標準原価×製造数で計上します。

⑥は、標準出来高と当月出来高の差額です（数量差異となります）

計算の手順（3/3）

（ハ）部門費差額（配賦差異）の計上

労務費、設備費、その他経費の計算を予定値（予定賃率×実績工数 など）で行っている場合、
実際発生費用と各組番号に配賦された値の合計値に差額が発生します。

これで

（イ）購入価格差異

（ロ）標準原価差異

（ハ）部門費差異

の3つの原価差額が発生することになります。

原価差額の総額が製造原価全体の1%未満の場合は、
当該金額を当期の売上原価（期間費用）として処理します。
1%以上の場合は、期末に売上原価と棚卸資産に按分します。

購入価格差額

・購入材料、部品毎に設定した標準単価による納入額と実際納入額との差

実際原価	標準原価 標準原価差額
------	----------------

- ・仕損じ
- ・能率、ロス
- ・発注金額差
- ・仕様変更等

部門費差額（配賦差異）

・実際に発生した費用と、予定賃率等×実績工数によって
製品（組番号、製造番号）に加工費として計上した金額との差

予定配賦と実際配賦

配賦計算には、

- ・ 予定配賦
- ・ 実際配賦

があります。

予定配賦の場合は、配賦差異（予算差異＋操業度差異）が発生します。

<予定配賦>

例）予算の段階で求めた時間単価（予定単価）× 実績工数 で配賦

	予算	実績
製造費	1,500	1,400

	操業度	配賦額	操業度	配賦額
S1			8	240
S2			7	210
S3			10	300
S4			8	240
S5			7	210
合計	50	1,500	40	1,200

予定時間単価 30

予算の製造費÷予算の操業度

配賦差異 -200

予算差異＋操業度差異

予算の製造費－実績の製造費

予算差異 100

操業度の実績値×予定時間単価

操業度差異 -300

実績の配賦額－予算の配賦額

<実際配賦>

例）毎月の費用実績、実績工数から求めた時間単価（実際単価）×実績工数
で配賦

	実績
製造費	1,400

	操業度	配賦額
S1	8	280
S2	7	245
S3	10	350
S4	8	280
S5	7	245
合計	40	1,400

実際時間単価 35

実績の製造費÷実績の操業度

【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソフトウェア株式会社

〒464-0075 名古屋市千種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室

Tel : 052-439-6758 Fax : 052-439-6759 担当 三井 江利子